

第155回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成30年5月

日時: 2018年5月25日(金) 18:00-19:30 場所: 神奈川大学 24号館 310室

◆ 主催: 防災塾・だるま

司会: 田中喜世美

記録: 中島光明

◆ 談義の会参加者: 会員28名、一般13名(内講演関係者4名)、計41名 (一般参加4名入会申込)



話題: 『災害時のトイレ対策』
～3.11から浮かび上がった横浜市の
支援体制の課題と取組について～

講師: 高橋 浩二氏(横浜市環境創造局 下水普及担当係長)
畑 裕己氏(横浜市資源循環局 街の美化推進担当係長)

講師: 高橋氏(左)と畑氏(右)

大災害時のトイレ対策は大きな課題です。飲食物はある程度我慢できても、排せつは我慢できません。横浜市の取り組みを参考に、住民の皆さんも「災害時のトイレ対策」を考え・備えましょう。

- ① トイレパックを備蓄していますか? ② 道路に埋設されている下水道管は大丈夫?
- ③ 下水道事業で行っている地震対策とは?

横浜市の災害用トイレ配備計画(地域防災拠点など)

<横浜市地域防災拠点数=458 拠点>

- ・トイレパック: 470万セット
(1拠点=約1万セット、約670人分)
- ・簡易式トイレ便座=3,500基(現在:6基)
- ・下水道直結式仮設トイレ=2,400器(進んでいない)
- ・くみ取り式仮設トイレ1,000器(拠点に各2基)
- ・トイレ用テント670器

<家庭でトイレパック備蓄の目安>

家庭の備蓄数=世帯人数×日数×5回(1日分)
4人家族の場合: 4人×3日間×5回=60個



下水道の役割(平成28年度末普及率99.9%)

- ① 水洗トイレが使える ② 川や海を洗浄
- ③ 衛生的な環境完備 ④ 街を浸水から保守

<内水対策>

- ・1時間降雨量50mmまで耐える設計
(予報用語=激しい雨)
- ・内水ハザードマップの想定条件
1時間降雨量76.5mm
(30年に1回想定=平成16年台風22号)
2日間降水量405mm(150年に1回想定)

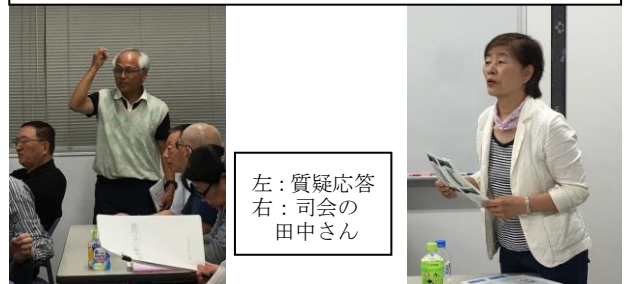
<災害時下水直結式仮設トイレの整備>

災害用ハマッコトイレ

防災拠点に整備: 平成29年度末174か所
(今後も順次整備します)

主なQ&A

- ・横浜市以外での対策は?: 自治体毎に違いあり
- ・拠点から下流の対策は?: 緊急道路を優先し点検を実施
- ・住居のトイレ使用?: 戸建てとマンションでは異なる
- ・マンションの場合?: 上から水を流してチェックする
- ・震災時の水洗トイレ使用?: 適切な答えがない
(使ってもいいとしか言いようがない、そしてあまりひどければ応急対応をする)
- ・トイレの防犯対策は?: 照明、2名単位、ブザー



●次回(第156回)案内

- ・日時: 2018年6月29日(金) 18時~19時30分
- ・会場: 神奈川大学 24号館 310号室
- ・テーマ: 「災害派遣における保健活動」 ~被災地からの声 公衆衛生を考えよう! ~
- ・講師: 栗原 明日香氏(横浜市健康福祉局 健康づくり担当係長 保険師)